

廃棄されていた現地土砂（災害発生土砂）を建設資材として資源化

取組開始時期	2013年10月	取組の カテゴリー	災害対策・防災・減災	応募部門 (○を付ける)	<input type="radio"/>	PF会員間連携部門	<input type="checkbox"/>	一般部門	<input type="checkbox"/>
---------------	----------	----------------------	------------	-------------------------	-----------------------	------------------	--------------------------	-------------	--------------------------

1. 団体名	株式会社インバックス	2. 連携先の 団体	◎株式会社インバックス、◎熊本県、各建設会社JV						
---------------	------------	-----------------------	--------------------------	--	--	--	--	--	--

3. 取組 目的	ソイルセメント技術を利用し、災害発生土砂を資源化することで早期災害復旧を行う	4. 関連する ゴール	      
---------------------	--	------------------------	---

5. 取組経緯

熊本県で発生した平成24年の豪雨災害により膨大な災害土砂の処分とコンクリート需要急増による資材不足が深刻な問題となっていました。
この課題に対し、災害発生土砂をソイルセメント技術により建設資材化することで、2つの課題を同時に解決。熊本県が集中プラントを設営し広範囲な災害箇所での早期災害復旧に大きく貢献しました。平成28年の熊本震災でも同方式が採用され利用が拡大しました。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

現地で発生した土砂をソイルセメント技術で資源化し建設資材として再利用。土砂廃棄の削減・外部資材調達削減となり循環型社会を実現します。また運搬量も大幅に削減となる為、CO2排出量の削減にも大きく貢献します。



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- ・現地土砂の利活用による循環型社会形成（土砂を捨てない）
- ・地域内で完結できる事業モデルの展開（地域の活性化）
- ・防災・減災対策の強化（レジリエントなまちづくり）
- ・CO2排出量の削減（運搬量の削減）

ステークホルダーとの連携

施主：熊本県（熊本県主導で地権者の協力を得る）
建設会社：各建設会社JV
品質管理：株式会社インバックス

モデル性・波及性

- ・廃棄土砂の資源化により外部調達コストが大幅に削減され、運搬量も減り、環境負荷低減にも貢献する
- ・施工性が良く、全ての建設会社で施工が可能
- ・現在砂防分野での採用が主となるが、今後は河川堤防や防潮堤、道路の下層路盤など現地土砂を活用する用途拡大が望める

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

サステナブルなサイクルの実現

地域住民・行政・教育・研究機関・民間企業の
パートナーシップを推進し、レジリエントなまちづくりを行う

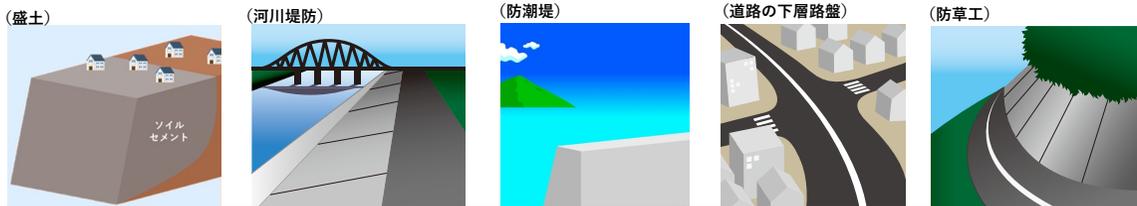


教育・研究機関

現地土砂を
ソイルセメントとして
資源化



広がり期待できる活用イメージ



当社が対応した災害復旧事業

- 2012年 7月 九州北部豪雨災害
- 2013年10月 台風26号災害
- 2014年 8月 豪雨による広島市土砂災害
- 2016年 4月 熊本地震
- 2017年 7月 九州北部豪雨災害
- 2018年 7月 西日本豪雨災害
- 2018年 9月 北海道胆振東部地震
- 2019年 8月 九州北部豪雨

インバックスグループの取組
<https://invax.co.jp/>

